

自民党 衆議院議員
衆議院内閣委員長

活動報告書

木原誠二

せいじ便り 90号

誠心誠意、政策で。

電力の脱炭素化

先ずは、日々の電力について脱炭素化を早急に進める必要があります。脱炭素電源としては、再生エネルギーと原子力発電が中心となりますが、中でも、太陽光発電と洋上風力発電の最大限の導入が必須です。

我が国でするので、今後は条件の厳しい地形への設置が課題となりますが、我が国が誇る自然との調和が何より大切です。地球温暖化対策が自然破壊へと進んでは笑い話にもなりません。このため、住宅やオフィスへの設置推進が不可欠です。現状、太陽光パネル等の生産は中国に握られていますが、より薄く、軽く、伸縮可能で発電効率のよい高機能太陽光パネルについて、日本の技術力でリードするとともに、

今でも鮮明にあの日のことが思い出されます。2015年12月12日、私はパリ郊外にて開催された第21回気候変動枠組条約締結国会議（COP21）に日本政府代表として出席し、地球温暖化対策に関するパリ協定に世界が合意する瞬間に立ち会いました。交渉は、先進国と途上国、また先進国の間でも利害が対立し、連日深夜に及ぶものでした。あれから6年弱、我が国は、先の環境サミットにて、2030年にCO₂排出量46%削減を宣言するに至りました。



脱炭素（カーボンニュートラル）に向けて

地域の発展のために共に活動する渋谷のぶゆきさんをご紹介します

渋谷のぶゆき

あたたかさあふれる都政に。



世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス。多くの尊い命が失われ、地域経済にも深刻な影響を与え続けています。まずは、検査体制や保健所機能の強化、医療提供体制の拡充、ワクチン接種等に全力を挙げると共に、長引くコロナ禍から、失業・倒産などの経済的打撃を最小限に食い止め、皆様の命とくらし、雇用と地域経済を絶対に守っていかねばなりません。

私、渋谷のぶゆきは、皆様の声に耳を傾け、その声を都政に反映させ、一日も早く普通のくらしを取り戻し、この清瀬市・東久留米市のさらなる発展につなげるために、これからも精一杯汗を流し続けて参ります。

清瀬市議会議員（6期） 渋谷のぶゆき

渋谷のぶゆき 7つの全力投球

あたたかさあふれる未来を築くために

1 まちの未来のために

少子高齢化、人口減少が一層進むといわれる中、まちが停滞・衰退することなくこれからも発展するためには、地場産業を振興し、道路の拡幅・歩道の設置等のインフラ整備や、空き家・空き店舗を減らし、テレワークしやすい環境づくり等を推進していかなければなりません。私は人が集い、魅力と賑わい、活力あふれるまちづくりをめざします。

全力投球 命とくらしを守り抜く

すべての市民の皆様に寄り添い、皆様の命とくらし、財産、雇用を守り抜く都政をめざします。農業・商工業の振興を通じ地域経済を守り、発展へとつなげます。

全力投球 子育て・働く女性を応援します

子どもたちは地域の財産です。人口減少と少子高齢化が進む中、未来を担う子どもたちへの環境づくり、そして、それを支えるための保育サービスや子育て支援の拡充・強化、様々なライフステージに応じて働ける、働き方改革、ワークライフバランスの推進が重要です。若い世代の方々がこの地域に住みたくなるまちづくりをめざします。

全力投球 夢と希望、生きがいの持てる社会に

オリンピック・パラリンピックを契機に、スポーツ、生涯学習の推進等、将来への夢や希望、生きがいを持ち続けられる社会の実現をめざします。

全力投球 「三多摩格差の是正・解消」で魅力あるまちづくり

医療、福祉、教育、インフラ整備等、「三多摩格差」の是正・解消をめざし、清瀬市、東久留米市が未来の東京の宝となる、魅力あるまちづくりをめざします。

1 市民の声を都政に届ける

政治家の仕事は何よりも市民の声を、正確かつ確実に行政に届けることだと思います。私は市民の皆様の声に耳を傾け、一人ひとりの声を都政に届け、政策に反映させて参ります。皆様のご意見・ご要望をぜひお聴かせください。

全力投球 安心・安全なまちづくり

防災機能を持つ六仙公園の整備、所沢街道の拡幅・歩道整備、都道新東京所沢線の整備を促進します。東久留米駅・清瀬駅・秋津駅の周辺整備とホームドア設置等、安全対策や様々な防犯対策を推進します。災害に強い都営大江戸線の延伸に取り組みます。

全力投球 デジタル化で先進的で効率的な行政に

行政の事務に時間がかかりすぎると指摘されます。それは、行政のデジタル化が遅れていることも原因の一つです。行政のデジタル化を推進し、皆様のご要望に迅速に対応する先進的な行政をめざすとともに、あらゆる無駄を省き一層の行政改革を推進します。

全力投球 くらし満足度の向上

皆様が、このまちに生まれ、育ち、学び、働き、住んで、本当に良かったと実感でき、利便性に富み、活力と魅力あふれるまちづくりをめざします。

PROFILE
衆議院内閣委員長、元外務副大臣。財政・金融全般、外交政策、社会保障・行革、都市農業など幅広く活動を展開。1970年6月東京生まれ。私立武蔵高校、東京大学法学部、ロンドン大学LSE修士卒業。平成5年大蔵省入省。平成17年9月衆議院初当選。著書に「英国大蔵省から見た日本」（文春新書）

Facebook <https://www.facebook.com/seiji.kihara>
twitter ID http://twitter.com/kihara_seiji

地元事務所
〒189-0025 東京都東村山市廻田町4-3-4
TEL 042-392-4105 FAX 042-392-4106

国会事務所
〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館915号室
TEL 03-3508-7169 FAX 03-3508-3719

<http://www.kiharaseiji.com>

発行：木原誠二後援会 東村山市廻田町4-3-4

東久留米

TOPICS

ストーカー規制法改正について

私が委員長を務める内閣委員会において、「ストーカー行為等の規制等に関する法律の一部を改正する法律案」が審議・可決されました。

令和2年度におけるストーカー事案の相談件数は2万189件に及びます。

そして、近年、GPS(全地球測位システム)を悪用し、相手の自動車にGPS機器を密かに取り付けたり、携帯電話のアプリを悪用したりして、勝手に位置情報を取得する悪質な行為が発生しています。

しかし、最高裁判所においては、ストーカー行為として法律で定められた「住居等の付近において見張り」をする行為には該当しないとの判断が示されたことから、立法府として、GPS等を悪用する行為についてもストーカー行為に含める法改正を行ったものです。

なお、今回の改正では実現しませんでした。ストーカー行為に該当するための主観的要素(動機)についての見直しが今後大きな論点です。現在のストーカー規制法は、恋愛感情に基づくものを対象としていますが、ストーカー事案の中には、恋愛感情に基づかない恨みや嫌がらせに基づいたものも見られます。こうした動機にも対処できるための見直しが必要です。また、ストーカー行為を行う加害者の更生のための取組も重要です。

引き続き、ストーカー行為の撲滅に向けて議論を継続していきます。



ミキサー食注入による健康を維持するために

重度の障害児者とそのご家族など、様々な障害により経腸栄養で愛する大切な生命をつないでおられる方々が多数おられます。その皆様にとって生命線ともいえる接続コネクターの仕様変更される、ミキサー食を続けられなくなる、悲痛な声が私のもとに届きました。同僚議員とともに議員連盟を立ち上げ、座長として昨年末、当事者の皆様との勉強会、厚労省からの聞き取りなどの活動が続け、本年4月末には、三原じゅん子厚生労働大臣へ直接申し入れを行いました。



三原厚労副大臣へ申し入れ

接続コネクターの仕様変更は、国際規格の導入に伴うものですが、新規格の接続コネクター導入により、ミキサー食注入には、従来よりも何倍もの時間と労力が必要となり、事実上不可能となってしまいます。

しかし、ミキサー食から経腸栄養剤投与に切り替えるとなると、せっかくミキサー食で改善されてきた「嘔吐」、「下痢」、「逆流性食道炎」、「拒食」、「てんかん発作の増加」などの症状が再発し、免疫力の低下などによる生命への危険性も伴います。

何よりも、ミキサー食によって家族が同じ食事を共にすると、家族の絆、想いが打ち砕かれてしまいます。

当事者の皆様の熱き想いによって、お陰様で既存接続コネクターの廃止は1年間延期となりましたが、新規格コネクターとの併存に向けて、活動を深化させていきます。

電力部門以外の電化の推進

現在のF-I-T制度から「屋根貸し」制度の導入も検討する必要があります。

電力の脱電力化とともに重要なのが、産業・民生(家庭等)・運輸交通の各分野での電化です。ガソリン車から電力自動車への移行はその一つです。また、長距離バスやタンカーなどでの水素やアンモニアの活用もこの中に入ってきます。今後、分野毎に電化の推進を含めた脱炭素戦略を立案するとともに、その実現に向けて予算、税制(投資促進税制)、規制・国際標準などをフルに活用していきます。

しかし、その前提は電力の脱炭素化であり、しかも、その脱炭素化された電力が安価であることが不可欠です。仮に電力価格が諸外国と比べ高くなってしまう場合、我が国経済の基盤である製造業はもちろんですが、今後の成長産業であるデジタル産業も海外に移転しかねません。デジタル社会の基盤であるデータセンター等は電力を多く消費するからです。

国際環境の整備

脱炭素推進には、安価な電力の安定的な供給が不可欠です。

脱炭素の実現に向けては、国際的な調和、競争条件の公平が重要です。ところが、中国は、2030年まではCO₂を増やし続け、脱炭素達成も2060年としています。太陽光パネルや風力発電装置・部品の製造などの脱炭素分野で主導

新型コロナウイルスの接種について



権を握る一方で、CO₂の排出も減らずに他の産業分野でも優位を維持することとなり、極めて問題です。今後、中国をカーボンニュートラルの国際的枠組みの中に取り込むべく取り組んでいきます。

5月に入り、高齢者へのワクチン接種が本格化しています。この原稿を書いている時点では、第一回目の接種率は10%を超えており、全国各地において、医療・福祉・自治体関係者など多くの皆様のご協力をいただき接種が進んでいます。私たちの地元においても、大規模会場を中心に接種をスタートした東村山・東大和・武蔵村山、診療所・クリニックを中心にスタートした東久留米・清瀬のようにそれぞれ創意工夫を凝らしながら進められています。改めて関係者のご努力に衷心より感謝申し上げます。



クチン接種のため診療所を休診する場合の休診補償、③ワクチン供給計画のより詳細・早期の提示、④高齢者の移動手段確保のための助成、などの要望が聞かれますので、きめ細かく対応していきます。

なお、コロナ対応で優等生と言われた台湾で感染が拡大するなど、ワクチン接種ではアジアが後れをとっています。ワクチン開発・製造が欧米に偏っているためです。そうした状況にあっても、昨年来ワクチン供給の確保に我が国として全力を挙げたことが現在の状況に結びついていますが、今後は、自前のワクチン開発・製造をどうしていくかが課題です。世界トップレベルの研究開発拠点の形成を含めた研究開発体制の強化、生産体制の構築、治験環境の整備などに取り組んでいきます。

東久留米